



株式会社 ニコン

2016年3月期 決算説明会

2016年5月13日
株式会社ニコン

※ 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的风险及び不確実性が含まれます。
従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

I . 2016年3月期の概況

II . 2017年3月期の見通し

III . 参考データ

2016年3月期 ポイント



- ◆会社全体では前年比 4%減収、16%営業減益。
前回予想に対して、売上は若干減、営業利益は8%増。

【精機】

FPD露光装置の販売台数増加により、前年比 7%増収、75%増益。
前回予想比、売上は若干減、営業利益は2割上振れ。

【映像】

デジタル一眼レフカメラの販売台数減少により、前年比 11%減収、19%減益。
為替のマイナス影響もあり、前回予想比、売上・営業利益は下振れ。

【インストルメンツ】

前年比、売上は7%増、営業利益は2倍強増
前回予想比、売上は微減、営業利益は1割増。

- ◆主に半導体装置事業における固定資産の減損実施により、84億円を特別損失に計上。
- ◆期末配当金は10円、年間配当金は18円。

2016年3月期 連結売上高・損益



単位: 億円	15年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	16年3月期 実績	上期 下期	前年 実績比	前回 予想比
売上高	8,577	$\frac{3,749}{4,828}$	8,350	$\frac{3,926}{4,424}$	8,229	$\frac{3,926}{4,303}$	▲ 348	▲121
営業利益 売上高比	434 5.1%	$\frac{130}{304}$	340 4.1%	$\frac{145}{195}$	367 4.5%	$\frac{145}{222}$	▲ 67	+ 27
経常利益 売上高比	463 5.4%	$\frac{147}{316}$	410 4.9%	$\frac{202}{208}$	428 5.2%	$\frac{202}{226}$	▲ 35	+ 18
当期純利益 (親会社株主に帰属) 売上高比	183 2.1%	$\frac{100}{83}$	220 2.6%	$\frac{112}{108}$	221 2.7%	$\frac{112}{109}$	+ 38	+ 1
FCF	463		140		243		▲ 220	+103
為替 ドル	110円	$\frac{103円}{117円}$	120円	$\frac{122円}{118円}$	120円	$\frac{122円}{118円}$	売上高への影響 + 138 ▲ 38	
ユーロ	139円	$\frac{139円}{138円}$	133円	$\frac{135円}{131円}$	133円	$\frac{135円}{130円}$	営業利益への影響 ▲ 26 ▲ 15	

前回予想比、為替はマイナスに影響したが、営業利益は8%増。

2016年3月期 精機事業



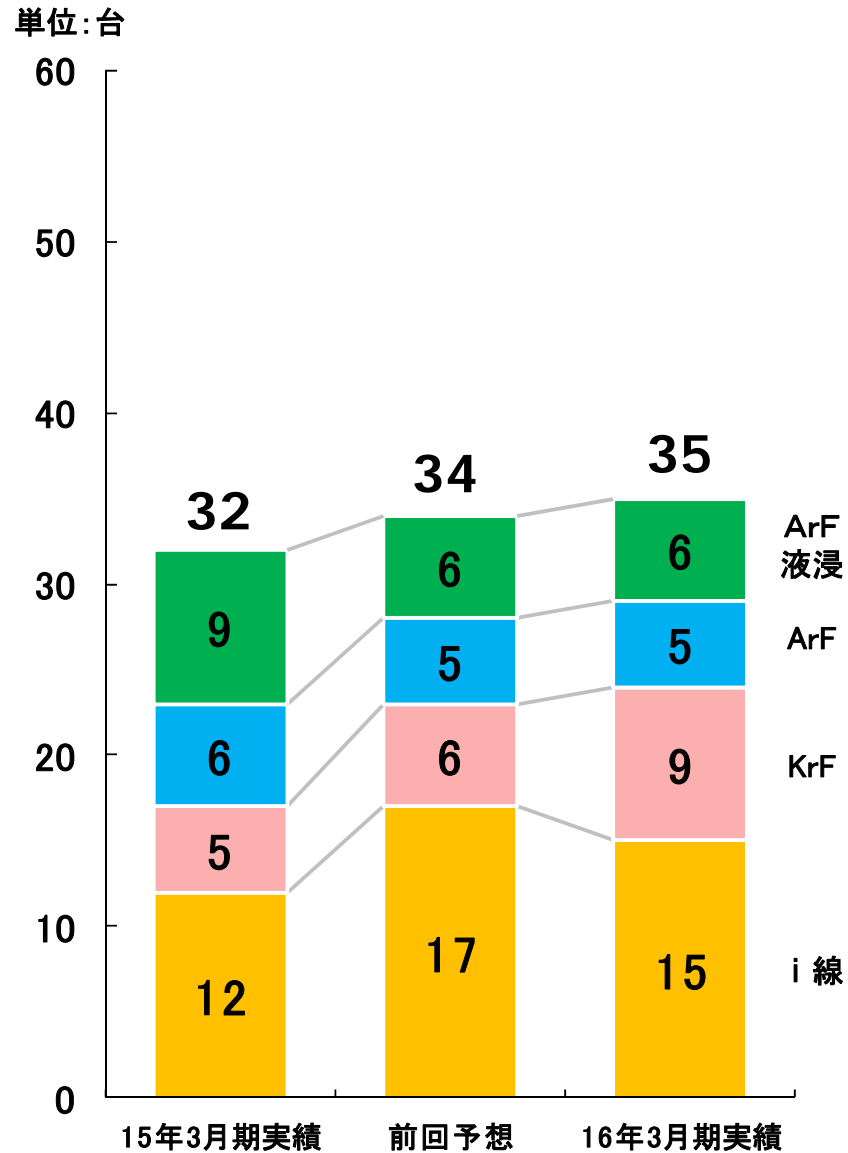
単位: 億円	15年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	16年3月期 実績	上期 下期
売上高	1,707	$\frac{549}{1,158}$	1,850	$\frac{789}{1,061}$	1,824	$\frac{789}{1,035}$
営業利益 売上高比	83 4.9%	$\frac{\blacktriangle 32}{115}$	120 6.5%	$\frac{40}{80}$	146 8.0%	$\frac{40}{106}$
半導体露光装置 新品/中古	19/13台	$\frac{5/1}{14/12}$	14/20台	$\frac{4/12}{10/8}$	14/21台	$\frac{4/12}{10/9}$
FPD露光装置	34台	$\frac{13}{21}$	51台	$\frac{19}{32}$	51台	$\frac{19}{32}$

前年比、FPD露光装置の販売台数が大幅に増加、7%増収、75%増益。
 前回予想比、半導体露光装置のサービス収益改善と経費抑制で営業利益は22%上振れ。

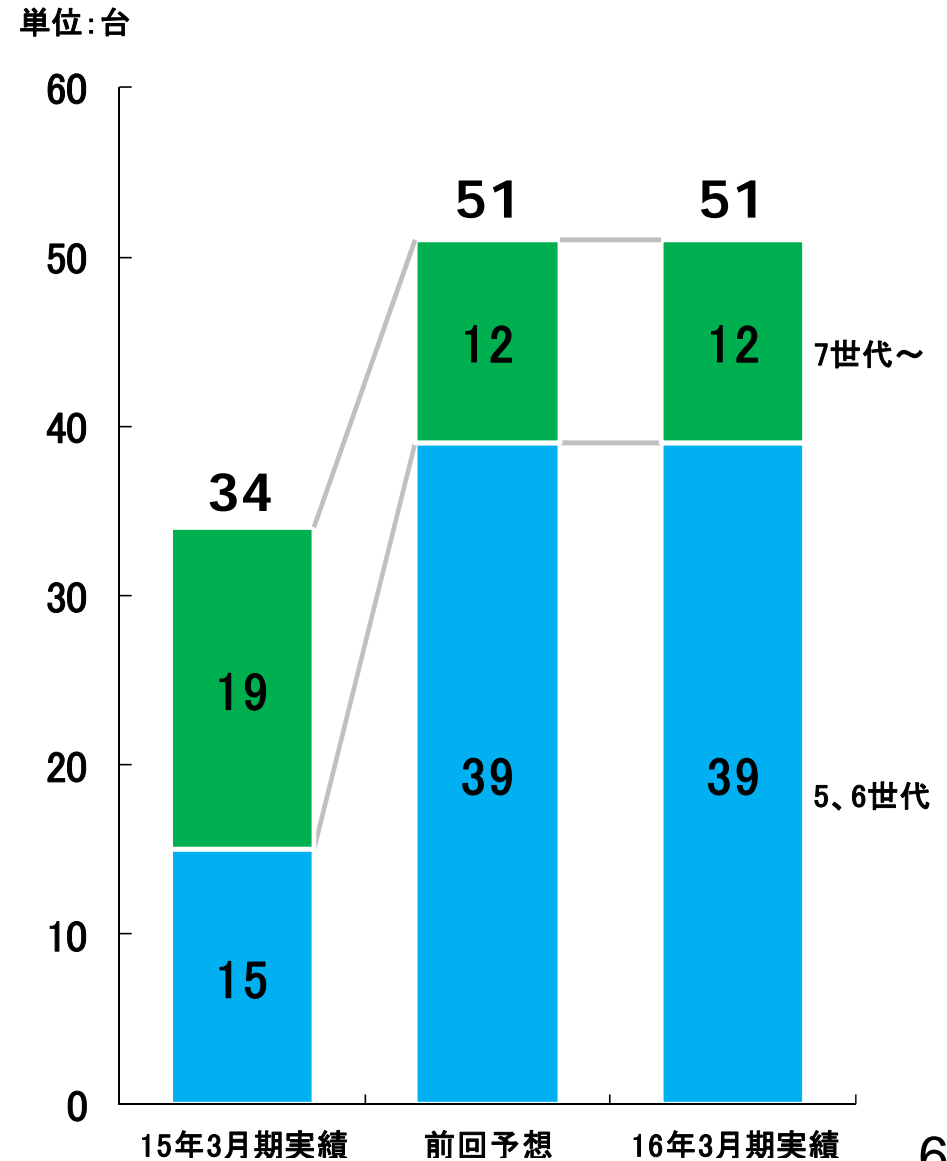
2016年3月期 精機事業



半導体露光装置光源別販売台数(中古含む)



FPD露光装置世代別販売台数



2016年3月期 映像事業



単位: 億円	15年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	16年3月期 実績	上期 下期
売上高	5,860	$\frac{2,774}{3,086}$	5,250	$\frac{2,636}{2,614}$	5,204	$\frac{2,636}{2,568}$
営業利益 売上高比	566 9.7%	$\frac{275}{291}$	500 9.5%	$\frac{242}{258}$	457 8.8%	$\frac{242}{215}$
レンズ交換式 デジタルカメラ	461万台	$\frac{218}{243}$	410万台	$\frac{200}{210}$	404万台	$\frac{200}{204}$
交換レンズ	668万本	$\frac{309}{359}$	585万本	$\frac{282}{303}$	590万本	$\frac{282}{308}$
コンパクト デジタルカメラ	769万台	$\frac{357}{412}$	620万台	$\frac{312}{308}$	623万台	$\frac{312}{311}$
レンズ交換式デジタル カメラ市場規模	1,357万台		1,240万台		1,304万台	
交換レンズ 市場規模	2,262万本		2,060万本		2,134万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	2,803万台		1,920万台		2,079万台	

前年比、前回予想比ともに、減収減益。

2016年3月期 インストルメンツ事業



単位: 億円	15年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	16年3月期 実績	上期 下期
売上高	723	$\frac{285}{438}$	800	$\frac{332}{468}$	772	$\frac{332}{440}$
営業利益 売上高比	11 1.5%	$\frac{\blacktriangle 21}{32}$	25 3.1%	$\frac{\blacktriangle 5}{30}$	28 3.6%	$\frac{\blacktriangle 5}{33}$

MS事業・産業機器事業とも、前年比増収増益。
 前回予想に対しては、産業機器事業の好調により12%増益。

2016年3月期 メディカル事業



単位: 億円	15年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/4)	上期 下期	16年3月期 実績	上期 下期
売上高	—	—	150	$\frac{53}{97}$	183	$\frac{53}{130}$
営業利益 売上高比	— —%	—	▲ 60 —%	$\frac{▲25}{▲35}$	▲ 46 —%	$\frac{▲25}{▲21}$

* 16年3月期のOptos社収益計上期間は、2015年6月～2016年3月。

前回予想比、事業全体の赤字幅は縮小。Optos社の事業は順調に推移。

2016年3月期 B/S内訳

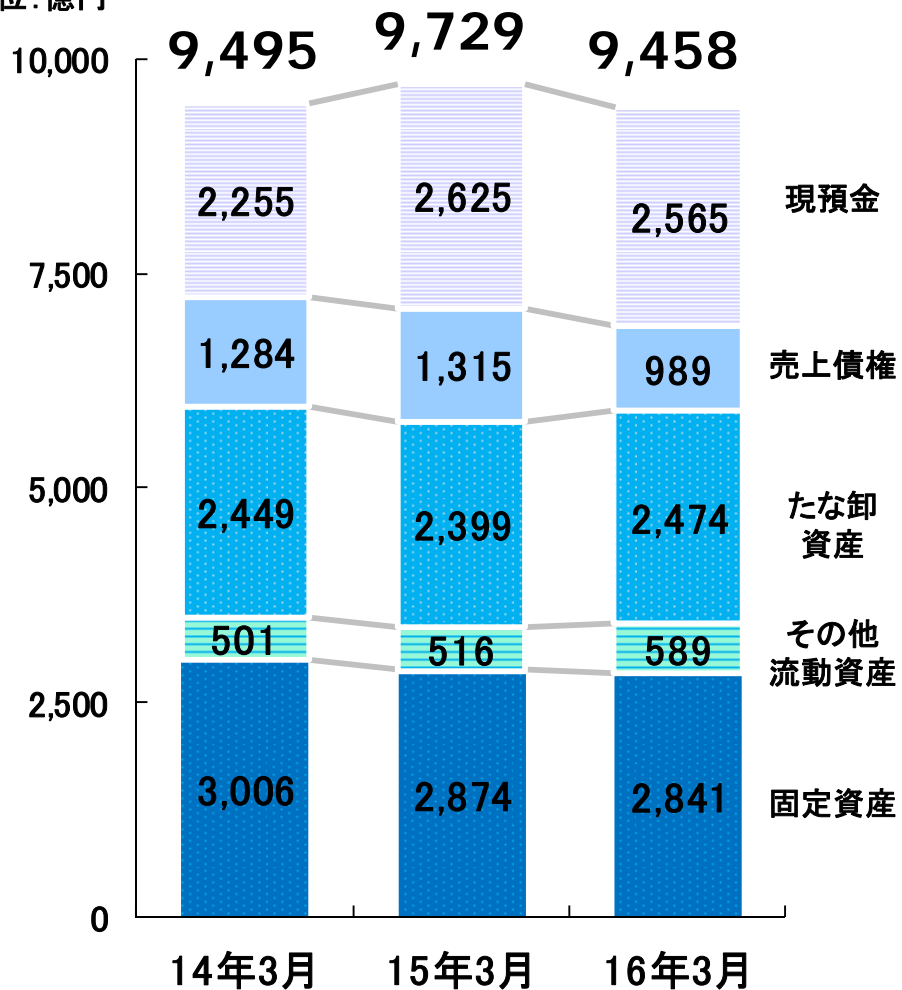


資産

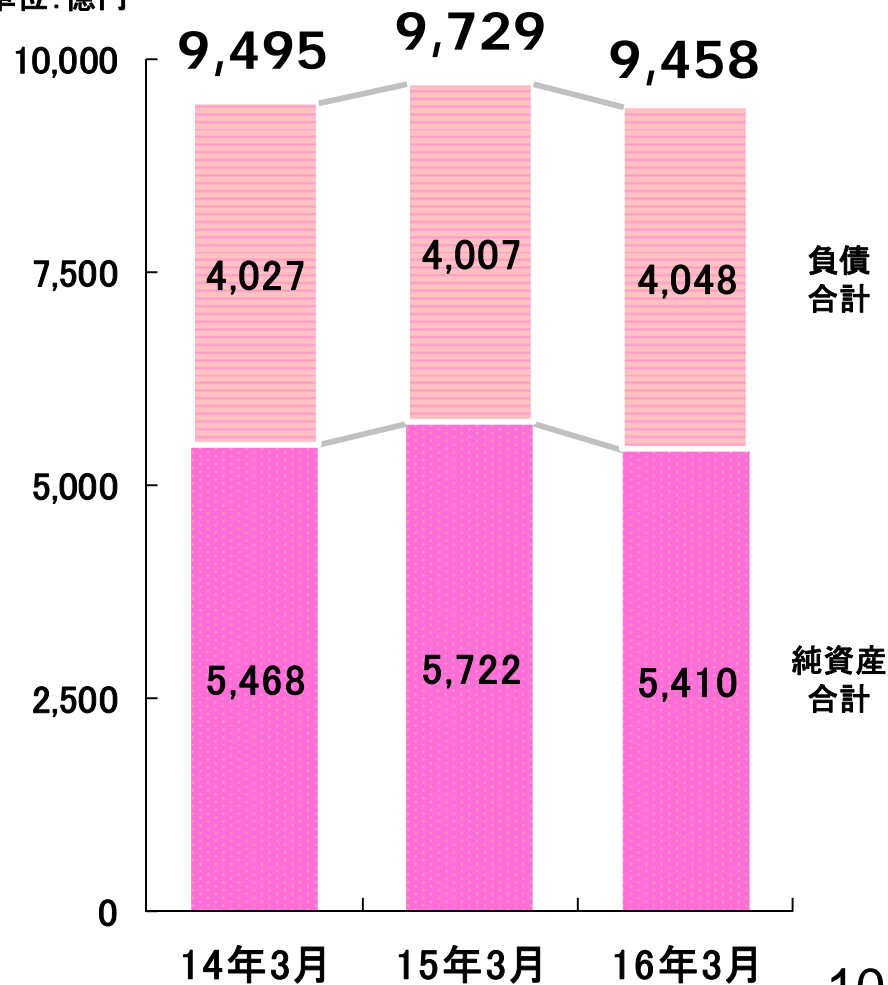
負債・純資産

自己資本比率	57.5%	58.6%	57.0%
--------	-------	-------	-------

単位: 億円



単位: 億円

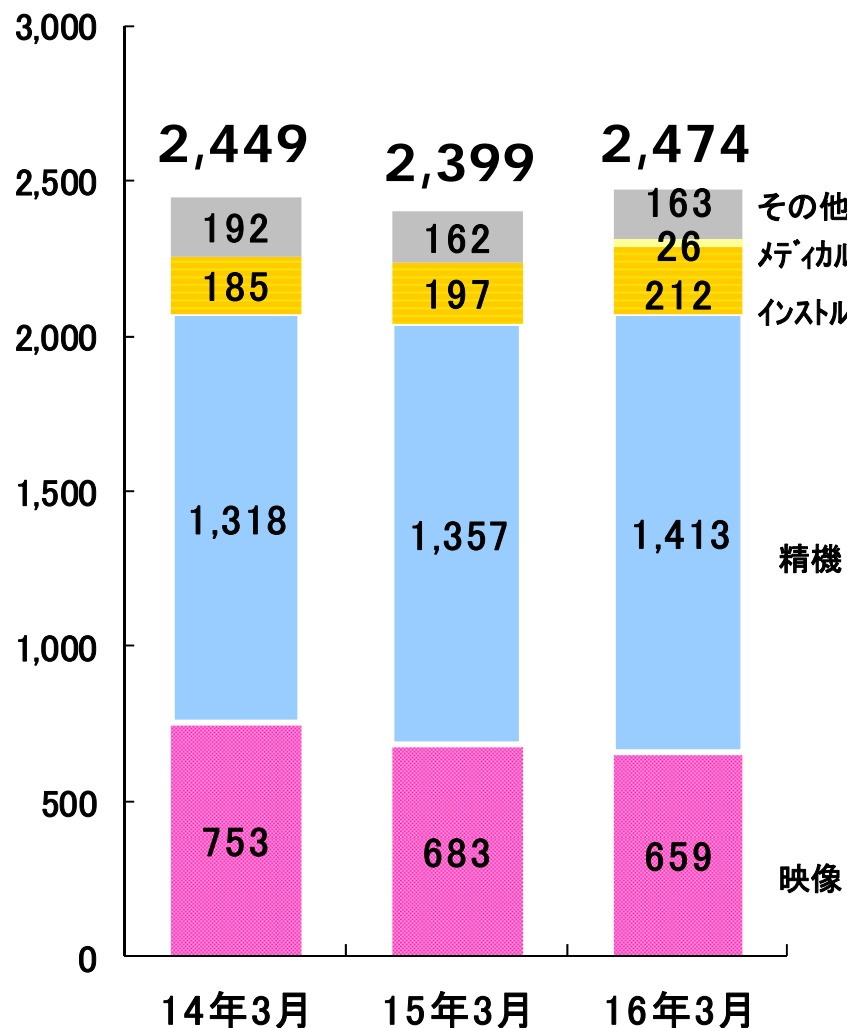


2016年3月期 棚卸資産 現預金・有利子負債



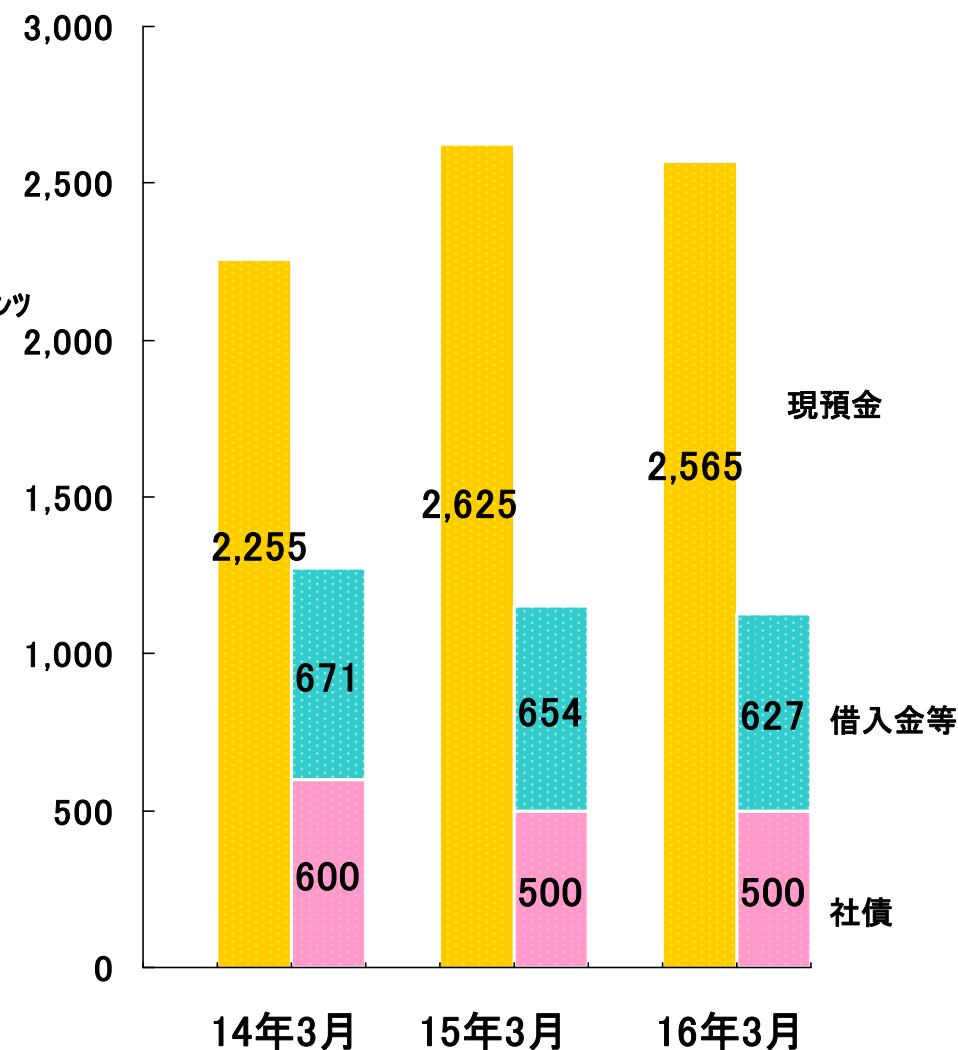
棚卸資産

単位:億円



現預金・有利子負債

単位:億円



* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあるため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

Agenda

I . 2016年3月期の概況

II . 2017年3月期の見通し

III . 参考データ

2017年3月期 見通しポイント



◆**精機・インストルメンツ事業は増収増益、映像事業は減収減益。**
会社全体では、売上高は微増、営業利益は25%増益の見通し。

【精機】

FPD露光装置の販売台数は約8割増を見込む。
精機事業全体で、43%増収、営業利益は2.7倍に増える見通し。

【映像】

デジタルカメラ市場縮小、新製品の発売遅延、為替のマイナス影響に加え、
上期は「平成28年熊本地震」の影響もあり、15%減収、23%減益の見通し。

【インストルメンツ】

MS事業・産業機器事業とも増収増益。
インストルメンツ事業全体で、17%増収、43%増益の見通し。

【メディカル】

売上高 220億円、営業損失 ▲ 60億円の見通し。

◆年間配当金は未定。

2017年3月期 見通し 連結売上高・損益



単位: 億円	16年3月期 実績	上期 下期	17年3月期 見通し	上期 下期	前年実績比
売上高	8,229	$\frac{3,926}{4,303}$	8,400	$\frac{3,630}{4,770}$	+ 171
営業利益 売上高比	367 4.5%	$\frac{145}{222}$	460 5.5%	$\frac{190}{270}$	+ 93
経常利益 売上高比	428 5.2%	$\frac{202}{226}$	490 5.8%	$\frac{210}{280}$	+ 62
当期純利益 (親会社株主に帰属) 売上高比	221 2.7%	$\frac{112}{109}$	300 3.6%	$\frac{140}{160}$	+ 79
FCF	243		450		+ 207
為替 ドル	120円	$\frac{122円}{118円}$	110円		売上高への予想影響額 約 ▲ 506 億円 営業利益への予想影響額 約 ▲ 114 億円
ユーロ	133円	$\frac{135円}{130円}$	120円		

映像事業の減収減益を精機事業・インスト事業の増収増益によりカバーし、売上高は微増だが、営業利益は25%増、当期純利益は35%増の見通し。

2017年3月期 見通し 精機事業



単位: 億円	16年3月期 実績	上期 下期	17年3月期 見通し	上期 下期
売上高	1,824	$\frac{789}{1,035}$	2,600	$\frac{1,260}{1,340}$
営業利益 売上高比	146 8.0%	$\frac{40}{106}$	400 15.4%	$\frac{270}{130}$
半導体露光装置 新品/中古	14/21台	$\frac{4/12}{10/9}$	26/16台	$\frac{11/8}{15/8}$
FPD露光装置	51台	$\frac{19}{32}$	90台	$\frac{53}{37}$
半導体露光装置 市場規模 CY15/16	220台		210台程度	
FPD露光装置 市場規模 CY15/16	80台		120台程度	

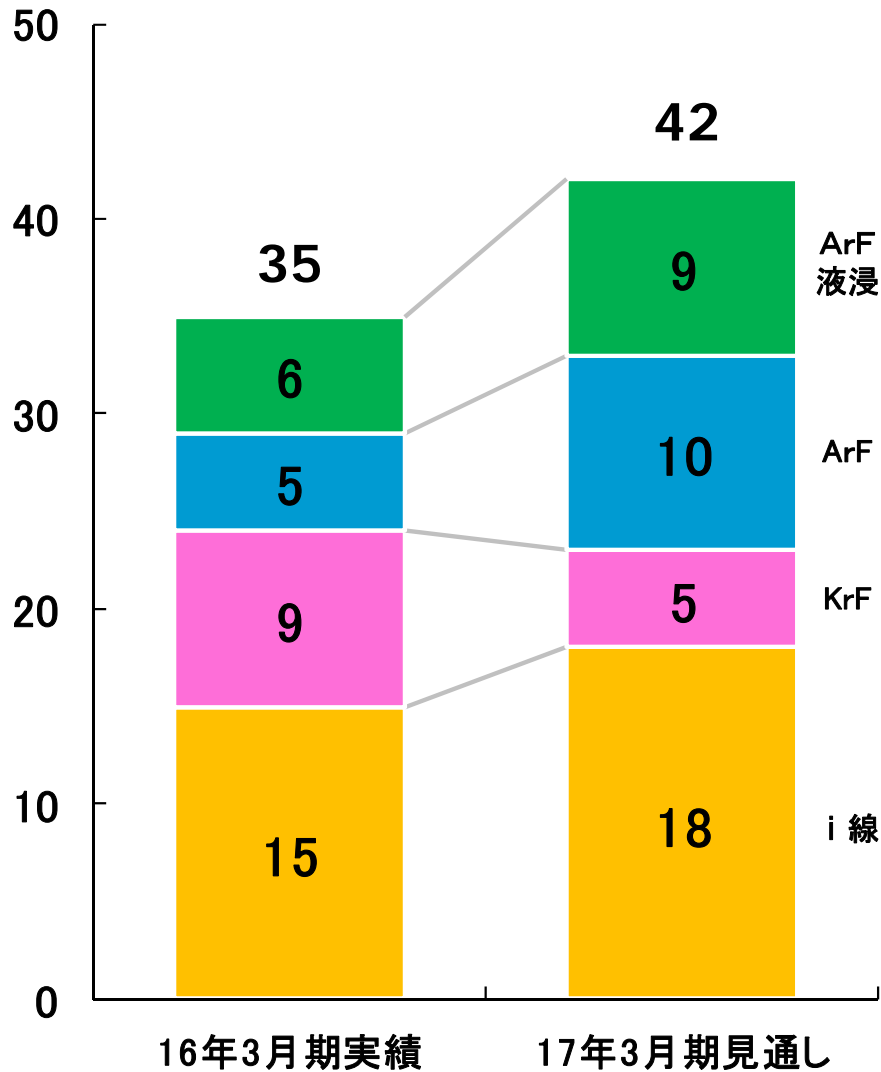
中小型高精細パネル向け投資規模は前年よりさらに拡大し、FPD露光装置の販売台数が大幅に増加。半導体露光装置では、ArF液浸・ArFドライなど新品の販売台数が増加。事業全体では43%増収、営業利益は2.7倍に増える見通し。

2017年3月期 見通し 精機事業



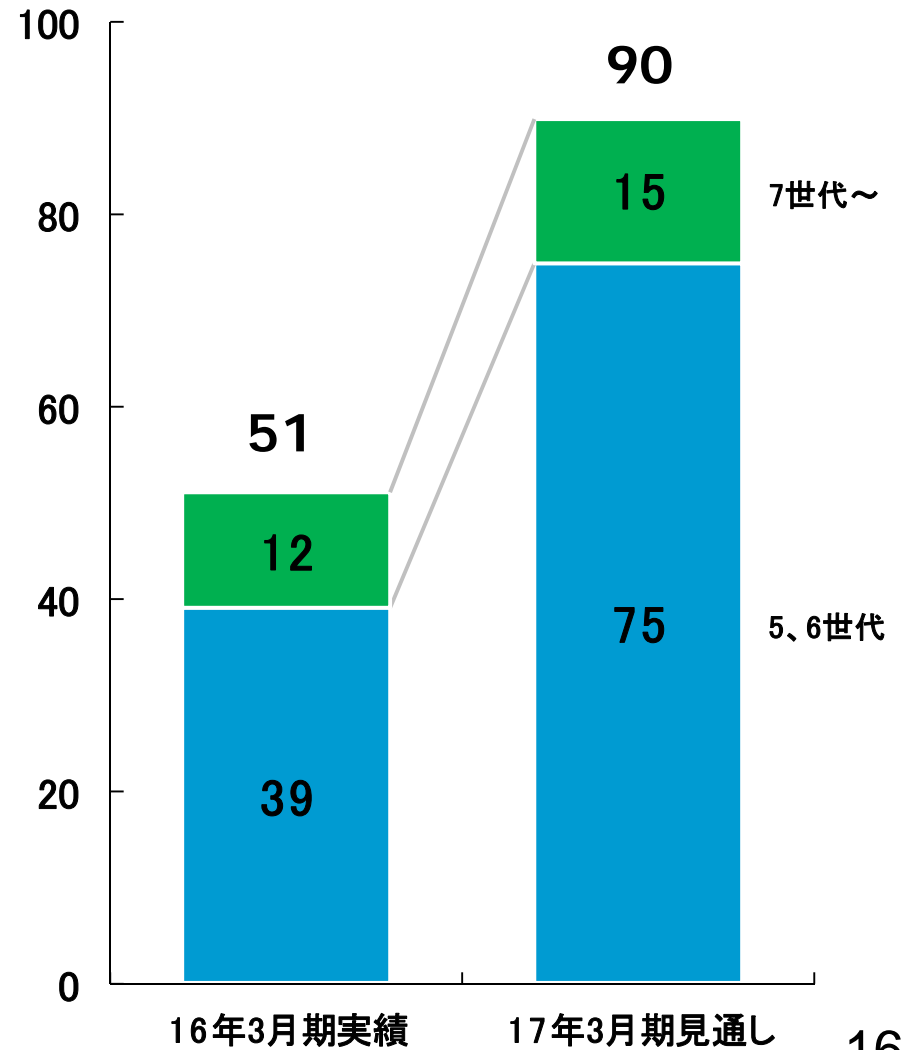
半導体露光装置光源別販売台数(中古含む)

単位:台



FPD露光装置世代別販売台数

単位:台



2017年3月期 見通し 映像事業



単位: 億円	16年3月期 実績	上期 下期	17年3月期 見通し	上期 下期
売上高	5,204	$\frac{2,636}{2,568}$	4,400	$\frac{1,800}{2,600}$
営業利益 売上高比	457 8.8%	$\frac{242}{215}$	350 8.0%	$\frac{100}{250}$
レンズ交換式 デジタルカメラ	404万台	$\frac{200}{204}$	320万台	$\frac{130}{190}$
交換レンズ	590万本	$\frac{282}{308}$	490万本	$\frac{180}{310}$
コンパクト デジタルカメラ	623万台	$\frac{312}{311}$	370万台	$\frac{150}{220}$
レンズ交換式デジタル カメラ市場規模	1,304万台		-	
交換レンズ 市場規模	2,134万本		※地震影響により市場見通しの算定が難しく、 掲載を見合わせました。	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	2,079万台		-	

市場縮小・為替・地震によるマイナス影響を商品ミックス改善・経費抑制で挽回をはかるが、15%減収、23%減益の見通し。

2017年3月期 見通し インストルメンツ事業



単位: 億円	16年3月期 実績	上期 下期	17年3月期 見通し	上期 下期
売上高	772	$\frac{332}{440}$	900	$\frac{350}{550}$
営業利益 売上高比	28 3.6%	$\frac{\blacktriangle 5}{33}$	40 4.4%	$\frac{\blacktriangle 10}{50}$

MS事業は、幹細胞新事業の事業化を開始する。
 産業機器事業は、自動車・航空機向け測定機器をメインに売上拡大をはかる。
 インスト事業全体では、17%増収、43%増益の見通し。

2017年3月期 見通し メディカル事業



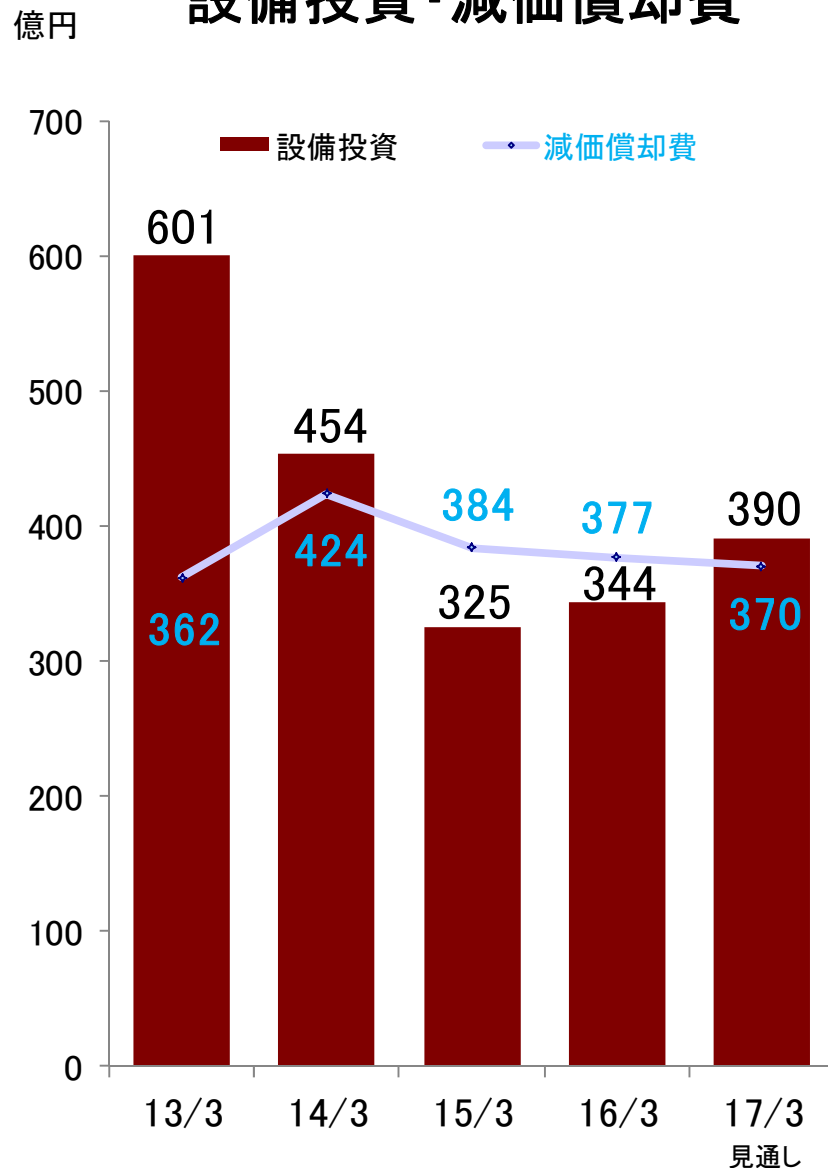
単位: 億円	16年3月期 実績	上期 下期	17年3月期 見通し	上期 下期
売上高	183	$\frac{53}{130}$	220	$\frac{115}{105}$
営業利益 売上高比	▲ 46 -%	$\frac{\triangle 25}{\triangle 21}$	▲ 60 -%	$\frac{\triangle 25}{\triangle 35}$

今期からOptos社は通年で収益計上。

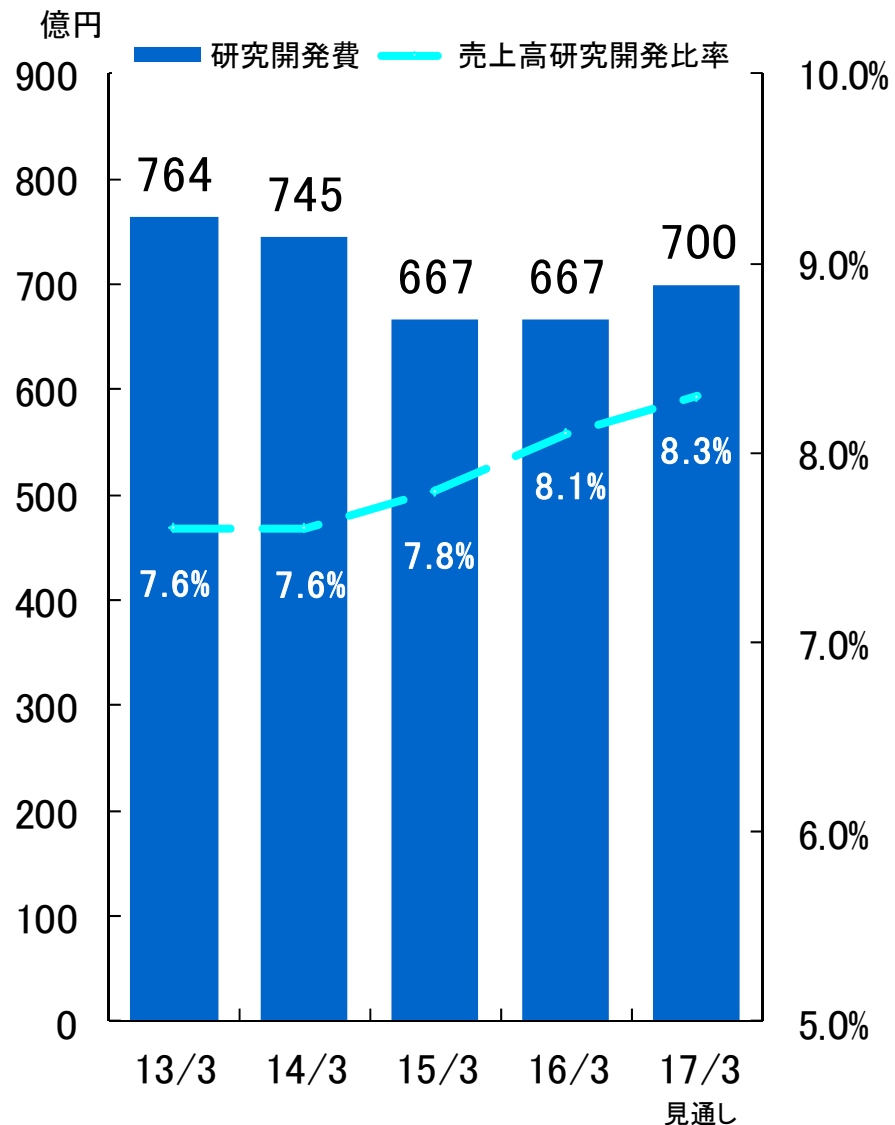
2017年3月期 見通し 設備投資・減価償却費 研究開発費



設備投資・減価償却費



研究開発費



* 2015年3月期より、ニコングループの減価償却方法を定額法に統一

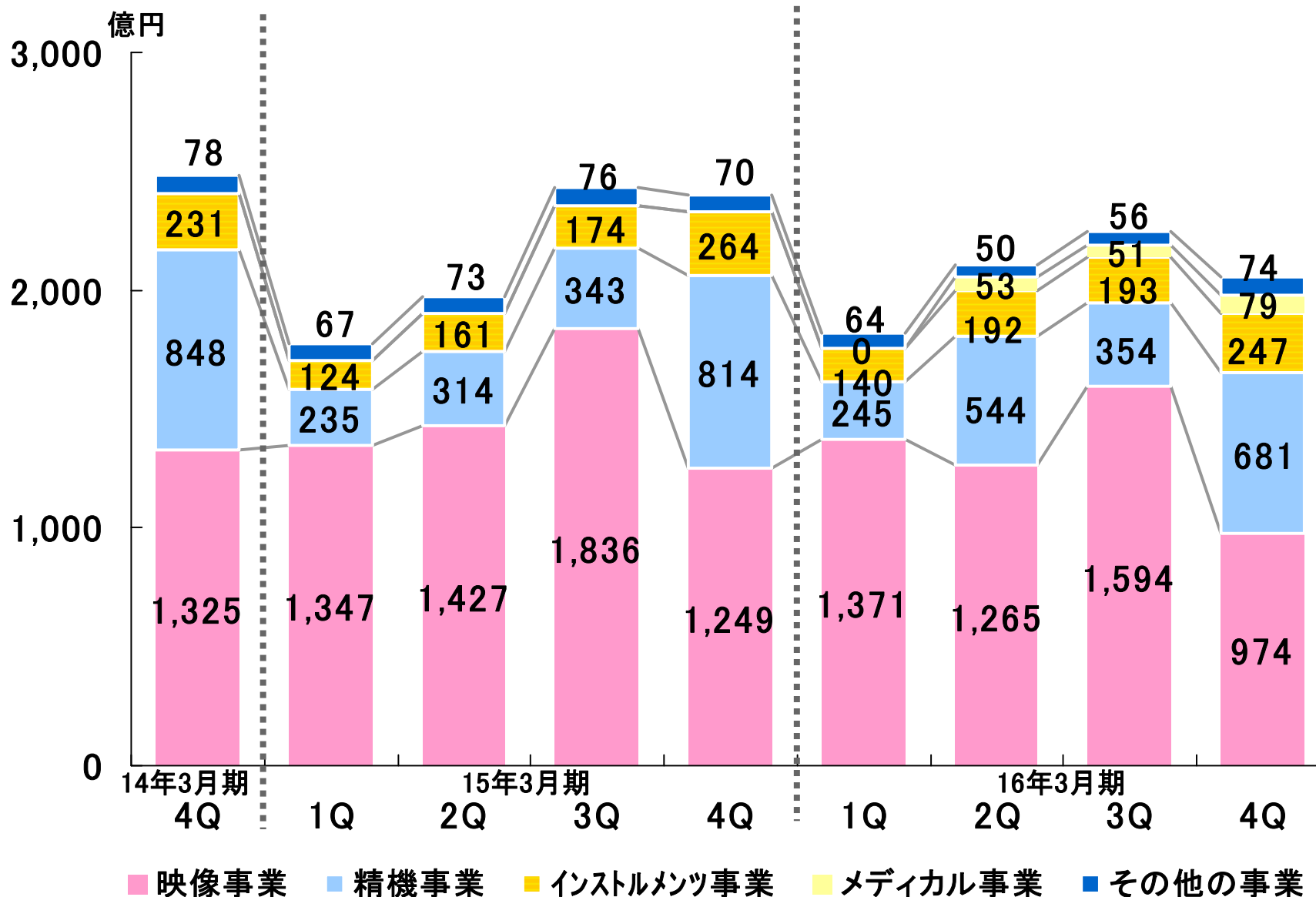
Agenda

- I. 2016年3月期の概況
- II. 2017年3月期の見通し
- III. 参考データ**

2017年3月期 見通し

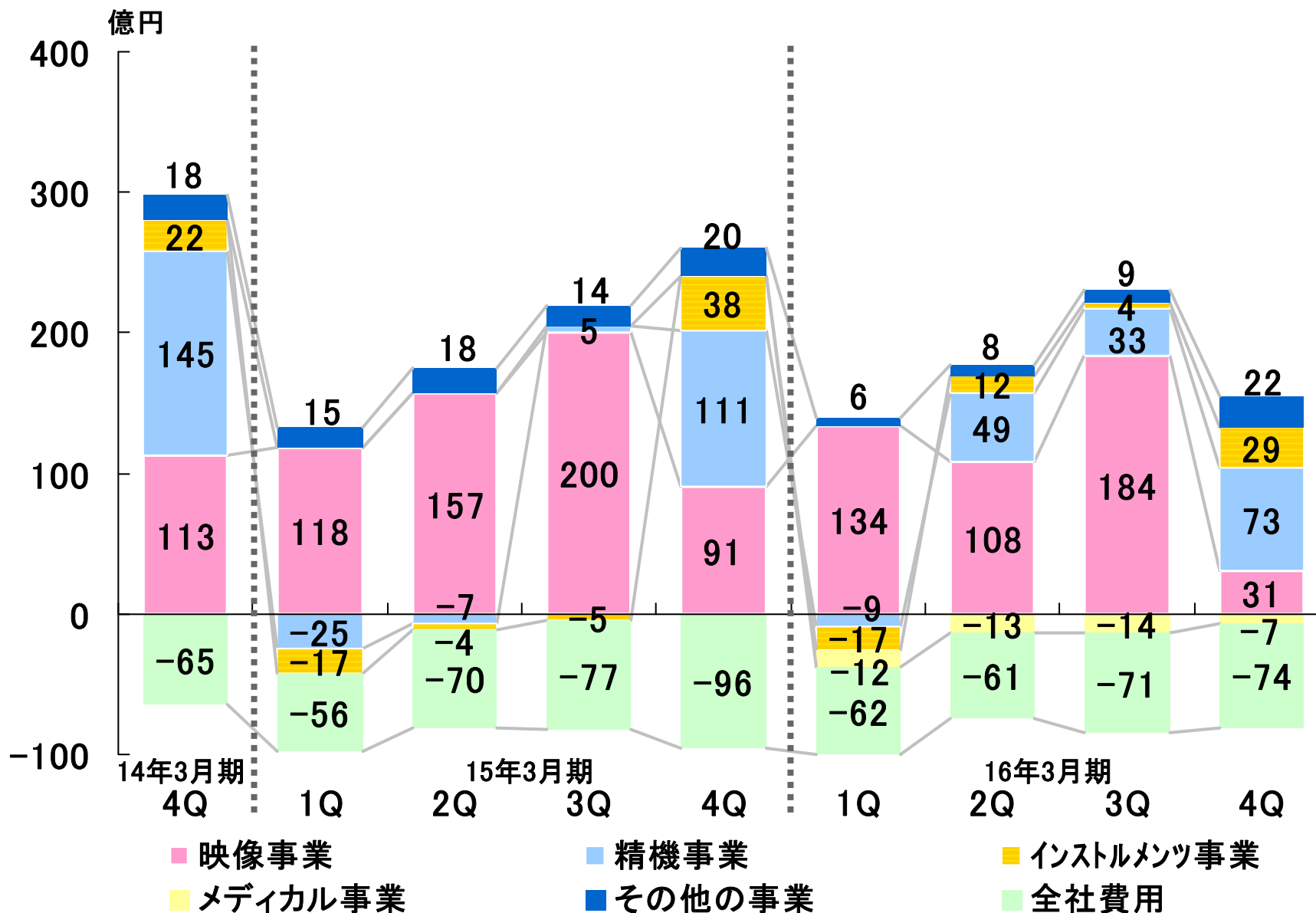
	為替レート	1円の変動による影響額	
	17年3月期 前提	売上高	営業利益
USDドル	110 円	約 35 億円	約 1 億円
ユーロ	120 円	約 12 億円	約 8 億円

参考データ 四半期セグメント別売上高推移



* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあるため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

参考データ 四半期セグメント別営業利益推移



* スライドで使用している数値は億円未満は切り捨ててあるため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。



NIKON CORPORATION